



◆千葉県議会議員矢崎けんたろう議会報告 Vol.34

森田知事は、2013年9月議会の一般質問で、旅券（パスポート）の一般質問で、旅券（パスポート）交付事務を、全市町村に一括して権限移譲する方針を明らかにしました。あれから2年半、4市先行のかわり、正式に浦安市でのパスポート申請・交付が可能となります。

2月議会で、千葉県知事の権限に関する条例の一部が改正される議案が可決されました。そのひとつが、市川市、成田市、我孫子市、浦安市に旅券発給に係る権限を移譲するもの。これにより、正式に浦安市でのパスポート申請・交付が可能となります。

# 浦安で旅券発給

パスポート事務移譲。7月1日から市役所で申請・交付



## 「総合企画水道」常任委員会

来年度の県知事選挙を控え、森田県政二期目の総決算に入っている県政。過去最大の約1兆7千億円の当初予算も可決され、華々しい事業への投資が目立ちます。

一方、県債残高も過去最大を記録し、県民一人当たりの借金は約50万円という現実。県民の生活を守る基本の施策の充実こそ、県の発展の基盤という視点で、委員会質疑を行いました。以下抜粋で報告します。

## ◆◆水道管路耐震化の進捗 浦安埋め立て地域の耐震化率は未だ18%

地震の際の埋立地域のライフラインの脆弱さは、東日本大震災から5年たった今も、記憶に新しいところです。震災後立ち上げた復興対策特別委員会からはじまり、ライフラインの課題解決のために進んで所属したこの総合企画水道常任委員会でも再三要望してきたこと。それが「管路耐震化」です。

これまで質疑で浦安埋め立て地域の水道管路耐震化の進捗を確認してきましたが、2011年が約10%、14年16.4%、そして今回は18.1%という結果でした。

県は、2024年を目途に、主要管路や重要施設への管路を100%耐震化、2040年までに、湾岸埋め立て地域全体の耐震化を完了する計画をたてています。

ほんの数%ずつしか進まない水道管耐震化。それだけ大きな事業であるのは理解して頂きます。しかし、安全な水の確保は、災害時は特に、県民の命に係るものとなります。早期整備を求めると共に、計画の遅延がないように、厳しく確認してまいります。

## ◆◆ホームドア設置について 事故防止のために 整備支援を

JRや地下鉄などで整備が進んでいるホームドア。転落などによる人身事故防止、それによる遅延や遅延の防止につながる有効な設備です。都内では良く見られるようになりましたが、県内ではあまり見かけませんが、整備状況を確認したところ、「つくばエクスプレス5駅、デイズニッソーライン4駅、東武野田線の柏駅、船橋駅の計11駅が整備されている」（交通計画課長）とのこと。一般の駅は、ほぼ未整備と云っていい状況です。

2011年に国は、利用者10万人以上の駅にホームドア又は、内方線つきの点状ブロックの整備をするよう方針を示しています。それを受けて、

け、県では、13年から補助制度を設け、整備促進を図っているとのこと。しかし、補助金を利用したホームドアの整備は、野田線の柏・船橋の2駅のみ、利用者10万人を超える残り15駅は、ブロック設置での対応となるそうです。

県内では、年間多数の人身事故で、命が失われています。また、県民の足にも多大な影響があり、ホームドア整備を急ぐ必要があります。

## ◆◆その他の質疑 計画や予算内の金額の精度向上を

委員会では、2016年度の特別会計下水道事業会計予算と、30年に渡る千葉県水道局長期施設整備方針についても質疑を行いました。

特別会計予算では、企業債の起債金額190億円についての根拠を確認。長期施設整備方針については、当初10年の事業費は算出するものの、その後の20年間は、予算数値がない計画であることを指摘。概算を入れ、5年、10年スパンで見直しを行うことを提言しました。

# 県議会報告



2016 Vol.34

【Profile】町立見明川小、市立見明川中出身、県立市川東高校、駒沢大学を卒業後、富士（現みずほ）銀行に入社（16年勤務）。2007年4月千葉県議会に出馬し初当選。2011年5月再選。2015年4月3選を果たす。総合企画水道常任委員会、党千葉県議会議員会財務会長、党千葉県連組織委員長。

http://www.yazaki-kentaro.jp

矢崎けんたろう事務所

【ご相談・ご意見】 〒279-0022 浦安市今川 4-2-2-1 Tel.047-720-0929 Fax.047-720-0939

◆千葉県議会議員（浦安市選挙区）・矢崎けんたろう議会報告 Vol.34

# 京葉線・りんかい線相互直通運転 鉄道アクセス向上調査

千葉県総合企画部交通計画課が行った「鉄道アクセス向上に関する調査」の結果が3月末に発表されました。この結果は、県内鉄道の利便性向上に向けた検討や、国・鉄道業者に対しての要望に使用されます。今回の調査の主題は、「京葉線・りんかい線相互直通運転」です。

私が初出馬した当初は、夢物語のようだった京葉線・りんかい線の相互乗り入れ。2013年に千葉市の熊谷市長が、相互乗り入れについての調査実施を発表、実現に積極的な姿勢を示しました。それ以来、関係機関を巻き込みながら、徐々に実現への期待が高まっています。

特に東京五輪の開催決定以降は、東京臨海地区の会場と幕張の会場をダイレクトに結ぶ唯一の鉄道網として、沿線自治体を越えた注目を集めています。

しかし、JR側は、正確な運賃加算が難しいことを理由に、消極的な姿勢を崩しておらず、なかなか突破口が見えない状況です。相互乗り入れは、私の初出馬時からの主要政策

でもありませんので、これまで議場で、はもろろん、あらゆる機会を通じて、県がもっと主体的に実現に向けて取り組むべきと指摘してきました。今回の調査は、県内外からの期待を背景に県が行ったもので、相互直通運転の実現による効果を次のようにまとめられています。

◆首都圏鉄道ネットワークの充実 京葉から埼京線までがつながり、県内に一部三線を結ぶ鉄道ネットワークが完成する。

◆幕張新都心・東京湾岸地域の活性化 アクセス向上により、大規模商業施設、コンベンション施設、スポーツ拠点としての発展が見込める。

◆京葉線・りんかい線利用者の利便性向上 周辺路線も含めた、混雑緩和、遅延解消、時間短縮など。

◆県内への波及効果 観光振興、移住定住の促進、通勤圏拡大。

これまで、「想定」として語られていたこうした効果が、調査結果として裏付けを持ったことになりました。この結果が有効に使われるよう引き続き注力してまいります。JR側の消極姿勢を結論としてしまわず、関係機関が丸となって引き続き粘り強く取り組んで行くことが重要です。私もあきらめることなく活動を続けます。

# 「談合業者救済」という名の理不尽

「談合」と「救済」。全く違う次元にあるこの言葉をひとつにつなげるような請願が、今回の定例会で可決されました。

請願を提出したのは、県の建設協会。山武地域の建設業者19社の「救済」を求めた請願です。19社は、県の発注工事計208件にわたって、2014年に公正取引委員会から排除措置と課徴金納付命令を受けています。それを受け、県も各社の賠償金を請求していましたが、いずれも支払われておらず、うち17社は簡易裁判所に民事調停を求めています。

今回の請願は、業者に課せられた負担金の減額や分割払いなどの軽減策を求めたもの。自民党の県議、建設問題研究議員連盟を中心とする12議員が紹介議員となっています。救済する理由は、こうした業者が「倒産・廃業に至ってしまつと、地域の経済や災害対策に影響を及ぼす」とのことです。

当然のことながら、私が所属する民主党はこの請願に反対。公明党や共産党など各党派、無所属議員の多くも反対に回りました。しかし、賛成した自民党議員は、議員定数95中54議席を占めており、結果として可決されてしまいました。そもそも「談合」に手を染めなければ、倒産・廃業の危機に陥ることもなかったはず。それほど、法は厳正に順守されるべきものなのです。今回のケースでは、組織ぐるみの談合を繰り返しており、悪質と言わざるを得ない状況。公正な入札のシステムを無視して、建設業者が、防災に関わるとはいえ、一部だけを特例的に救済することは、極めて不公正であり、あってはならないことです。更に、現在簡易裁判所において、県執行部と事業者との調停が行われている事業に対し、議会が救済を求める決定を下すことにも、問題があるでしょう。残念ながらこうした「談合救済」は、千葉にはじまつたことではなく、全国各所で事例が見られます。「やった者勝ち」「正直者がバカを見る」理不尽さ。こんな千葉県、こんな日本を変えていかなければ、熱く誓ったできごとでした。

◆◆◆矢崎コラム ホームページ掲載のコラムの一部をリライトして転載

# 千葉県議会

Web <http://yazaki-kentaro.jp>  
 Mail [info@yazaki-kentaro.jp](mailto:info@yazaki-kentaro.jp)  
 Tel 047-720-0929  
 Fax 047-720-0939

矢崎けんたろう事務所 〒279-0022 浦安市今川 4-2-2-1

アドレスや電話番号読み込み